

鳥取県・広島県の総合防災情報システム共同構築・運用について

1. 経緯

これまで、中国地方知事会において、防災情報システムの効率的な構築・運用について議論し、鳥取県及び広島県でシステムを共同構築・運用することとなった。

この度、共同で進めてきた総合防災情報システムが完成し、令和7年4月1日より運用を開始する。

2. 総合防災情報システムの概要

- 気象情報や被害情報等、各種情報を総合防災情報システムへ集約し、地図上へ重ね合わせて表示することで概況を視覚的に把握できる。
- 集約した情報を時系列的または事案毎に整理でき、事案毎の対応状況を情報の錯綜なくとりまとめることができる。
- 従来手作業で作成していた被害報の自動生成や、各種情報の自動集計及び帳票出力が可能となり、人的リソースの最適化を図ることができる。
- 必要な情報については自動連携し、行政機関や関係機関への情報伝達・共有及び外部への情報配信を行うことができる。

→迅速な意思決定を支援し、住民の早期避難や迅速な救助活動の実施を促進する。



3. 共同運用を実施するメリット

○両県及び県内市町村の広域応援の円滑化

- ・両県が収集した被害情報等を地図上で重ね合わせて確認できるため、被災地域が県境を跨ぐ場合でも物資輸送等の広域応援に係る意思決定の迅速化に寄与
- ・同一の画面レイアウトのシステムとなり、職員派遣等の広域応援時に円滑な業務遂行が可能

○総合防災情報システムに関する研修及び訓練の共通化

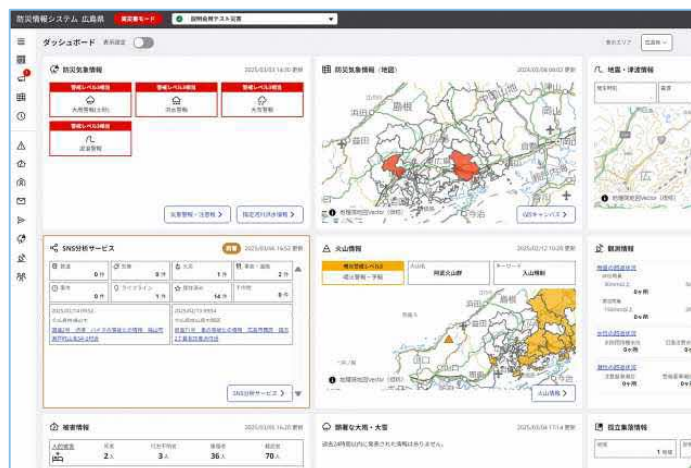
- ・通常時から広域的な訓練や研修等を実施することにより、大規模災害に備えた準備が可能

○共同構築・運用による費用の低減

- ・各県それぞれで同規模のシステム構築を行う場合と比較し、費用低減が可能
(広島県の場合：単県構築費用の約6割での構築が可能)

4. 主要機能紹介

○ ダッシュボード



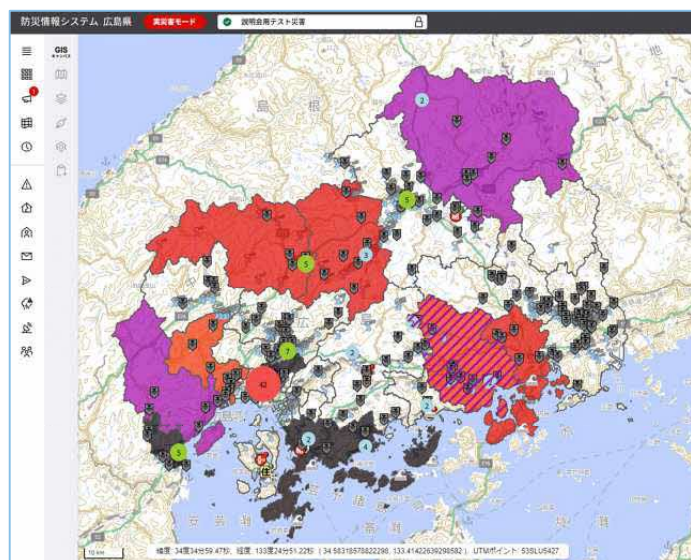
【概要】

- ・県内の各種防災情報や災害対応状況の概要を一覧で確認することが可能

【操作】

- ・端末毎に情報パネルの表示/非表示や表示順の変更が可能
- ・各パネルから詳細情報の確認ページへ遷移可能

○ GIS キャンパス



【概要】

- ・各種情報を重ね合わせて地図上に表示することで、一元的に状況を確認することが可能

【操作】

- ・レイヤー選択により各種情報を重ね合わせて表示することが可能
- ・他県の気象情報や参加県の対応状況を地図上で閲覧することが可能
- ・地図上に作図やメモ情報を直接書き込み、その情報をレイヤー情報として保存することが可能

5. 今後の予定

○ 共同運用参加県の募集

→将来的に中国 5 県での共同運用を目指し、他 3 県の参加に向けて働きかけを行う。